

(仮称) 町田市文化芸術のまちづくり計画
(骨子案)

2024年1月

町田市

1 策定の背景と目的

2017年に「文化芸術振興基本法」が「文化芸術基本法（以下、「法」とする。）」に改正され、文化芸術単体の振興を行うのではなく、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の関連分野と併せた推進が求められることとなりました。また、食文化を含む生活文化や芸術祭など幅広い分野の文化も振興の対象となるとともに、各自治体での文化芸術推進計画の立案も「努力義務」とされています。

加えて、2018年には、「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」（障害者文化芸術推進法）が成立し、国および自治体の責務として、文化芸術活動を通じた障がい者の個性と能力の発揮及び社会参加の促進を図ることが定められました。

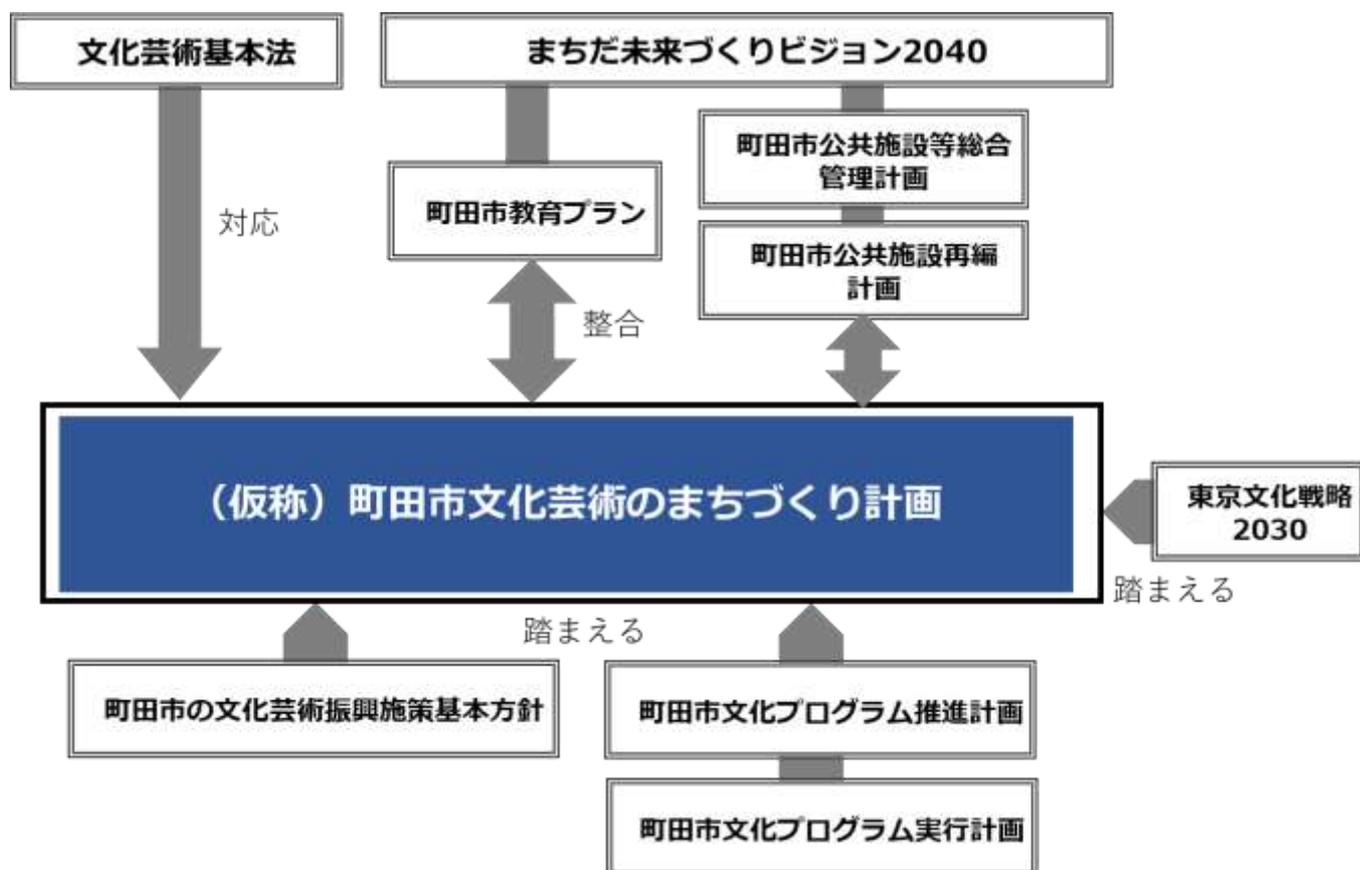
この他、2018年の「文化財保護法」の大幅改正、2020年の「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」（文化観光振興法）の施行、2022年の「博物館法」改正などが行われ、文化財や博物館等の観光などへの活用促進が図られています。

これら国の流れを踏まえ、東京都では、2021年度に「東京文化戦略 2030」を策定し、文化プログラムのレガシーとコロナ禍での知見や経験から、誰もが文化芸術に身近に触れられる環境整備や、文化芸術の力による新たな価値の発見、世界のアートシーンの中心となる創造性の創出、アーティストや文化芸術団体等が継続的に活動できるしくみづくりの4つの文化戦略を掲げています。

町田市では、2021年度に、「まちだ未来づくりビジョン2040」を策定し、施策 7-2 に「文化芸術に親しめる環境・機会を充実させる」を定めています。そこでは「いつでも、どこでも、だれでもあらゆる文化を楽しむまち」を目指す将来像として掲げ、文化プログラムをはじめとする取組を実施してきました。

これら環境の変化を踏まえるとともに、文化芸術の持つチカラをまちの活性化に活かし、町田市基本構想・基本計画「まちだ未来づくりビジョン2040」に描かれたなりたい姿に向けて文化芸術施策を戦略的に推進していくため、(仮称)町田市文化芸術のまちづくり計画を策定します。

2 計画の位置づけ



3 計画期間

本計画の実施期間は、2025～2034年度の10年間とし、2025年度から2029年度までを実施計画（前期）、2030年度以降を実施計画（後期）とします。

4 対象範囲

(1) 文化芸術の範囲

法に規定されている文化芸術の範囲や、施策範囲に取り込むこととしている関連分野に加え、「町田市の歴史や生活」「新しく多様な取り組み」も対象とします。（オンラインで鑑賞・発信する文化芸術も含む。）

法に規定されている文化芸術	芸術	文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊その他の芸術
	メディア芸術	映画、漫画、アニメーション及びコンピュータその他の電子機器等を利用した芸術
	伝統芸能	雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊その他我が国古来の伝統的な芸能
	芸能	講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱等
	生活文化	茶道、華道、書道、食文化その他生活に係る文化
	国民娯楽	囲碁、将棋、その他国民的娯楽、出版物及びレコード等
	文化財等	有形及び無形の文化財並びにその保存技術
	地域における文化芸術	地域固有の伝統芸能及び民俗芸能
町田市で追加する文化芸術	町田市の歴史と生活	-
	新しく多様な取り組み	ストリートカルチャー（ダンス、パフォーマンス、大道芸、パレード等） コミュニティアート等（アートを媒介としてコミュニティの課題を解決する活動）

（２）対象者の範囲

町田市民を基本とし、町田に訪れる方（交流人口）も対象とします。また、年齢・国籍、障がいの有無、文化芸術の習熟度等にかかわらず、あらゆる状態にある方を対象とします。

居住地	町田市民、町田に訪れる方（交流人口）
年齢	胎児期・幼年期(0～5歳)、少年期（6～18歳）、青壮年期（19～44歳）、中年期（45～64歳）、高年期（65歳～）
性別	男性、女性、その他
国籍	日本、外国籍
健康状態	障がいのある人、介助・介護が必要な人、病気状態の人
文化芸術活動	文化芸術活動をしていない人、初心者、上級者、生業としている人

（３）関連分野との連携

法では、文化芸術を単体で振興するのではなく、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の関連分野と併せた推進をすることとしています。これは、文化芸術の持つ「人間が人間らしく生きるため糧となる」本質的な価値、「他者と共感しあい、地域社会・人類社会を発展させる」社会的な価値、「新たな需要や高い付加価値を生み出す」経済的な価値の3つの価値により、社会課題を解決し、経済を活性化すること等を目標とするためです。

法で 施策 範囲 に 取り 込む こと として いる 関連 分野	観光、産業	芸術祭、文化資源を用いた観光、地元企業の商品
	まちづくり	景観、街並み、地形、道路標識
	国際交流	各国の文化芸術
	福祉、教育	学校教育や保育園等での体験、障がいのある人による文化芸術

5 町田市の現状

(1) 町田市の人口

町田市の人口は、2023年4月1日時点で431,018人です。日本の総人口が2008年以降減少しており、首都圏に立地する町田市においても、2025年をピークに減少傾向となると推計されています（「町田市将来人口推計報告書」（2021年10月）より）。

2023年度時点では、同年の昼夜間人口比率は88.6%で、夜間人口より就業・就学人口が少ない首都圏近郊のベッドタウンとなっています。

また、町田市在住の外国人数は、2023年4月1日時点で8,315人となっており、総人口の1.9%を占めるまでになっています。町田市在住の外国人数は、2013年の4,747人から2022年には7,259人と2,512人増加し、10年間の増加率は52.9%となっています。

子どもにやさしいまちづくりに取り組んだ結果もあり、2022年の0～14歳の年少人口の転入超過数が全国の市町村で2位となっています。（総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告2022年（令和4年）結果」より。）

(2) 町田市の立地

町田市は、東京多摩地域の南部に位置し、東西と南北に鉄道が走っています。そのため、交通の結節点にあり、町田駅での乗り換え客は1日あたり50万人と、首都圏南西部随一の鉄道乗降客数を誇っています。

(3) 町田市の産業

2016年経済センサス活動調査では、従業者ベースで「卸売・小売業」がもっとも多く、続いて「宿泊業、飲食サービス業」、「医療、福祉」、「建設業」の順となっており、住民向けの産業、特に商業が中心です。小売業の販売額では、多摩地域で、八王子市について2位となっており、商業中心の「商都町田」として栄えてきました。

町田市の商業は、江戸時代以降の歴史を持ち、特に1960年代以降の高度成長期の中で、首都圏郊外の交通の結節点である町田駅を中心に、急激に成長してきました。

6 町田市の文化芸術をとりまく現状

(1) これまでの文化芸術施策の実施状況

町田市では、2011年度から「町田市の文化芸術振興施策基本方針」、2017年度から「町田市文化プログラム推進計画」に基づき、文化芸術施策を推進してきました。

「町田市の文化芸術振興施策基本方針」では、市民や文化関連団体等が文化芸術を振興していくために、イメージを共有し、連携していくための基本的な方向性を指し示してきました。また、関係団体・庁内組織との連携を行いながら、市として安定的かつ発展的により魅力的な施策を推進していくための今後の文化芸術振興のよりどころとして策定しました。

文化芸術関連の事業として、町田市では関係団体・庁内組織との連携を行いながら、2022年度に全311件の取組を実施しました。

【2022年度の文化芸術関連の事業（抜粋）】

市民への鑑賞機会の提供（鑑賞機会の提供、アウトリーチ等）	市民センターでのふれあいコンサート、障がい福祉施設でのみんな笑顔の展覧会、町田一番街夏フェスティバル、まちなかシネマ、野津田Greenフェスティバル、まちだ版旅する絵本、パリコレッ！ギャラリー、文学講座、図書館でのミニ展示 など
市民が行う文化活動の支援（発表・活動の場の提供、人材の発掘・支援、人材育成等）	コミュニティセンターまつり、ゆうゆう版画美術館まつり、シルバー展、町田さくらまつり、パークミュージアム894、生涯学習センターまつり、文学館まつり など
次世代の担い手育成（子ども・親子向け事業）	版画美術館での子ども向け講座、子どもクラブでの夏祭り、ひなた村祭、やくしの学び、小中学校発表会・作品展、図書館でのおはなし会・子ども俳句教室、ことばらんどショートショートコンクール など
文化芸術に関する情報収集、情報発信	町田デジタルミュージアム、ひとことPOPコンテスト、#おうちで文学、ハイクで俳句 など
市民や学校等の交流・連携のための事業	文学館まつり、町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ!」、生ッ粋祭 など
社会的課題解決や共生社会の実現に向けた事業	笑って学ぶ交通安全の集い、税の作品展、まちだECO to（いーこと）フェスタ、体験講座くらべてみよう！今と昔のエコライフ など
文化資源の保存・継承・活用	町田時代祭り、薬師池公園四季彩の杜「秋遊び」のデジタル掛け軸、町田の歴史を歩く、小中学校への出張歴史授業、民俗展 むかしの暮らしと運ぶ道具 など

また 2020 年に開催された東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした「beyond2020 プログラム」により、日本の文化を活かし、次世代に受け継がれる文化プログラムを全国に展開することを受け、町田市では、文化資源の活用や地域文化の振興に対する市民の機運を高め、2020 年以降の町田市が文化をとおしてより豊かなまちへと成長するための仕組みづくりとして、「町田市文化プログラム推進計画」を策定し、町田市文化プログラムを推進してきました。

一人でも多くの人々が参加し、その成果を未来に継承する文化芸術にかかわるイベントや事業を展開するため、当時の「文化芸術振興基本法」で定められた文化芸術の対象分野に加え、工芸やデザインなど、人々の暮らしに密着した創造的な分野を含めた、幅広い文化芸術を対象としてきました。また、「町田市に関わる歴史と生活」や「新しく多様な取り組み（ダンス、大道芸、パレード等ストリートカルチャーなど）」も対象とし、より多くの市民の参画を目指してきました。

2018 年から 2021 年までは、まちだの魅力を文化芸術の力で発信する市民自らが主体となった事業や活動を「町田市文化プログラム」として認証しました。また、2022 年 1 月からは「町田市文化芸術プロモーション」として引継ぎ、事業や活動を紹介しています。

【町田市文化プログラムの実績】

	実績値
認証件数（2018 年 11 月～2021 年 9 月）	200 件
フォロワー総数（2019 年 8 月～2021 年 12 月）	826 件
いいね！の数（2019 年 8 月～2021 年 12 月）	9,969 件

【町田市文化芸術プロモーションの実績（2022 年 1 月～2023 年 3 月）】

	実績値
投稿数	136 件
フォロワー総数	1,013 件(文化プログラム 826 件含む)
いいね！の数	14,899 件(文化プログラム 9,969 件含む)

■強み

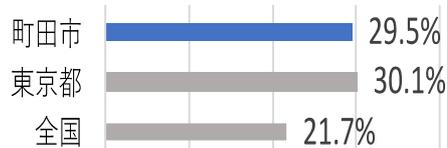
- ①町田市文化プログラムの取り組みや町田市民文化祭などと併せ、市民主体による文化芸術活動も比較的しやすい状況となってきています。

■図表 1 2023 年度 文化芸術に関する市民意識調査結果

* 町田市内在住の 18 歳以上の 909 人より回答。

* 比較は東京都「文化に関する意識調査」(2017)、文化庁「文化に関する意識調査」(2020)

過去 1 年間に、文化芸術に関わる活動（創作や出演、習い事、体験活動への参加など）をした人の割合

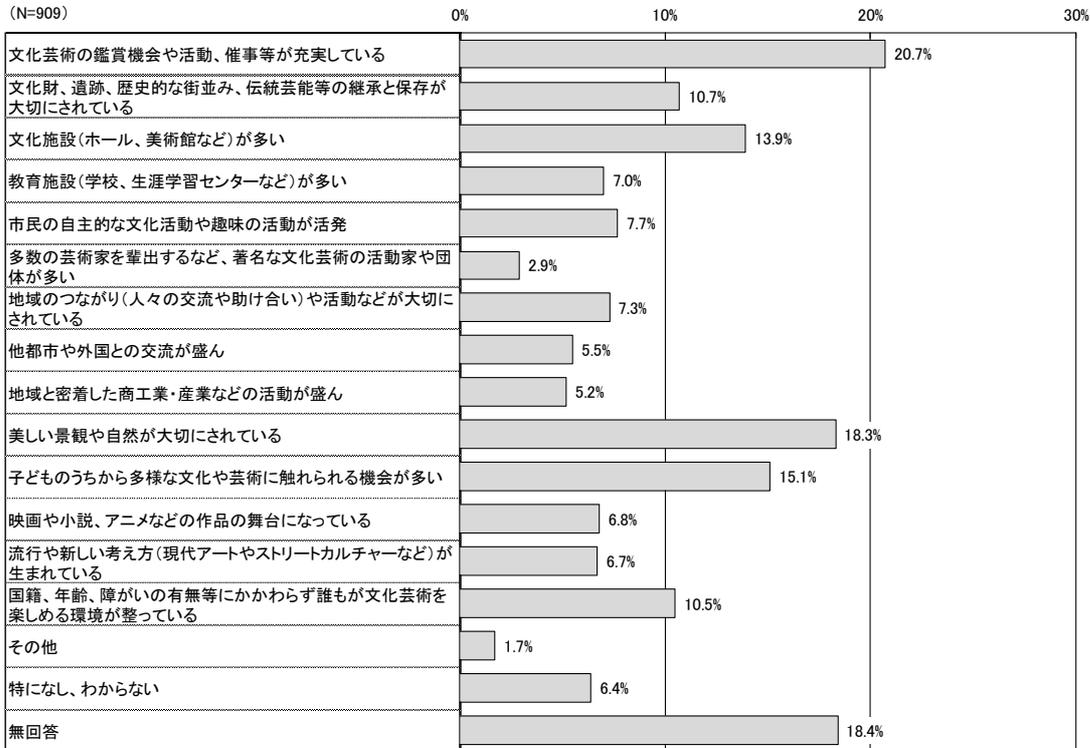


町田市は、文化芸術活動を自ら行っている比率は 29.5%となっており、全国の同設問結果の 21.7%と比べて高く、東京都に近い値となっている。

②子どもの頃から、興味・関心を持つきっかけとなる多様な文化芸術に触れられる機会を提供することが求められており、子どもの文化芸術体験への関心が高くなっています。

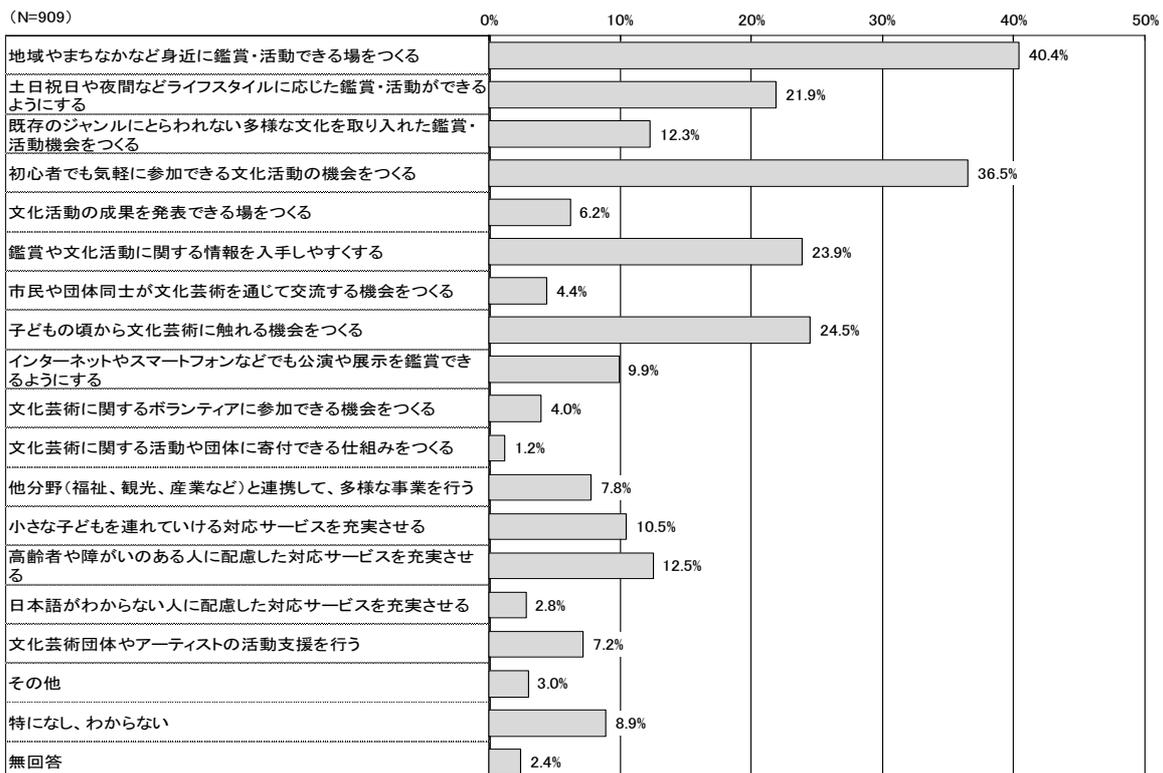
■図表2 2023年度 文化芸術に関する市民意識調査結果

町田市の文化芸術の面で力を入れてほしいもの



文化芸術面で市に力を入れてほしいものとして、「子どものうちから文化芸術に触れられる機会が多い」が15.1%となっている。

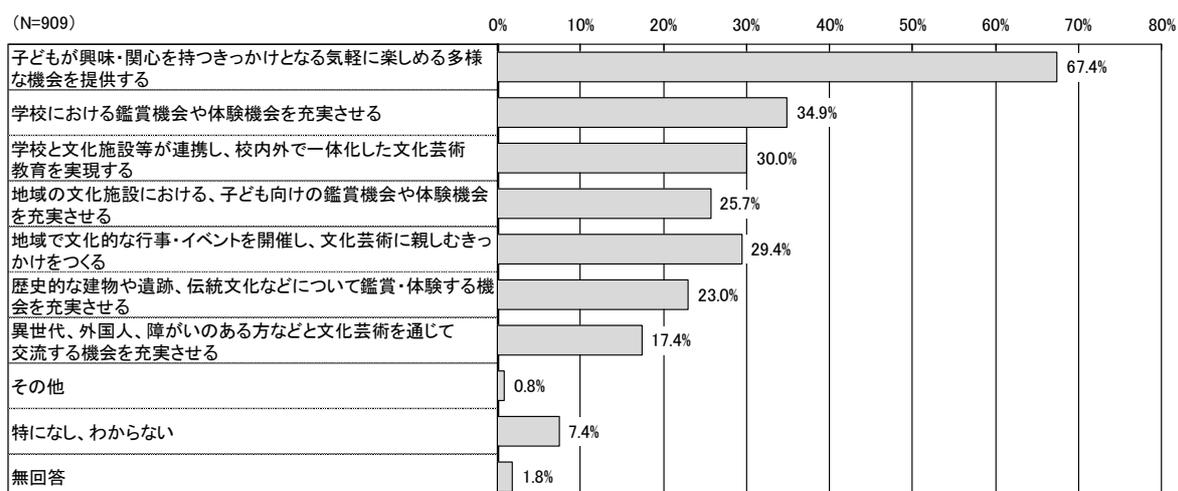
文化芸術に親しむ市民が増えるために、どのような市の取り組みが必要か



文化芸術に親しむ市民が増えるために必要な取り組みとして、「初心者でも気軽に参加できる文化活動の機会をつくる」が36.5%、「子どもの頃から文化芸術に触れる機会をつくる」が24.5%となっている。

■図表3 2023年度 文化芸術に関する市民意識調査結果

中学生以下の子どもの文化芸術体験について、何が重要だと思うか



中学生以下の子どもの文化芸術体験において重要なものとして、「子どもが興味・関心を持つきっかけとなる気軽楽しめる多様な機会を提供する」が67.4%、「学校における鑑賞機会や体験機会を充実させる」が34.9%、「学校と文化施設等が連携し、校内外で一体化した文化芸術教育を実現する」が30.0%となっている。

- ③日本最大の文化芸術集積地である東京都心部等へのアクセスが確保されており、多様な文化芸術に触れる機会が整っています。

■図表4 東京都心部等 1500 席以上のホール

	ホール名称	席数	所在地
1	K アリーナ	アリーナ 20,033 席	横浜市西区
2	横浜アリーナ	アリーナ 17,000 席	横浜市港北区
3	東京有明アリーナ	メインアリーナ 15,000 席	江東区
4	日本武道館	アリーナ 14,471 席	千代田区
5	東京国際フォーラム	ホール A 5,012 席	千代田区
6	パシフィコ横浜	国立大ホール 5,000 席	横浜市西区
7	NHK ホール	ホール 3,601 席	渋谷区
8	神奈川県民ホール	大ホール 2,493 席	横浜市中区
9	東京文化会館	大ホール 2,303 席	台東区
10	Bunkamura	オーチャードホール 2,150 席	渋谷区
11	昭和女子大学人見記念講堂	講堂 2,070 席	世田谷区
12	東京宝塚劇場	大劇場 2,069 席	千代田区
13	府中の森芸術劇場	どりーむホール 2,027 席	府中市
14	横浜みなとみらいホール	大ホール 2,020 席	横浜市西区
15	カルッツかわさき (川崎市スポーツ・文化総合センター)	ホール 2,013 席	川崎市川崎区

16	サントリーホール	大ホール 2,006 席	港区
17	東京芸術劇場	コンサートホール 1,999 席	豊島区
18	ミューザ川崎 シンフォニーホール	音楽ホール 1,997 席	川崎市幸区
19	東急シアターオーブ	ホール 1,972 席	渋谷区
20	LINE CUBE SHIBUYA (渋谷公会堂)	ホール 1,956 席	渋谷区
21	帝国劇場	ホール 1,897 席	千代田区
22	J:COM ホール八王子	ホール 1,832 席	八王子市
23	新国立劇場	オペラ劇場 1,814 席	渋谷区
24	新宿文化センター	大ホール 1,802 席	新宿区
25	文京シビックホール	大ホール 1,802 席	文京区
26	すみだトリフォニーホール	大ホール 1,801 席	墨田区
27	相模女子大学グリーンホール	ホール 1,790 席	相模原市南区
28	東京オペラシティ	コンサートホール 1,632 席	新宿区

■問題点

①文化芸術の鑑賞率については、全国と比較して必ずしも高い状況にはありません。

また、鑑賞しなかった理由としては、忙しいことや興味を引く内容がないことがあり、文化芸術に参加しない、できない人が増えていくことで、市民が文化芸術に興味を持たなくなることが考えられます。

■図表5 2023年度 文化芸術に関する市民意識調査結果

* 町田市内在住の18歳以上の909人より回答。

* 比較は東京都「文化に関する意識調査」(2017)、文化庁「文化に関する意識調査」(2020)

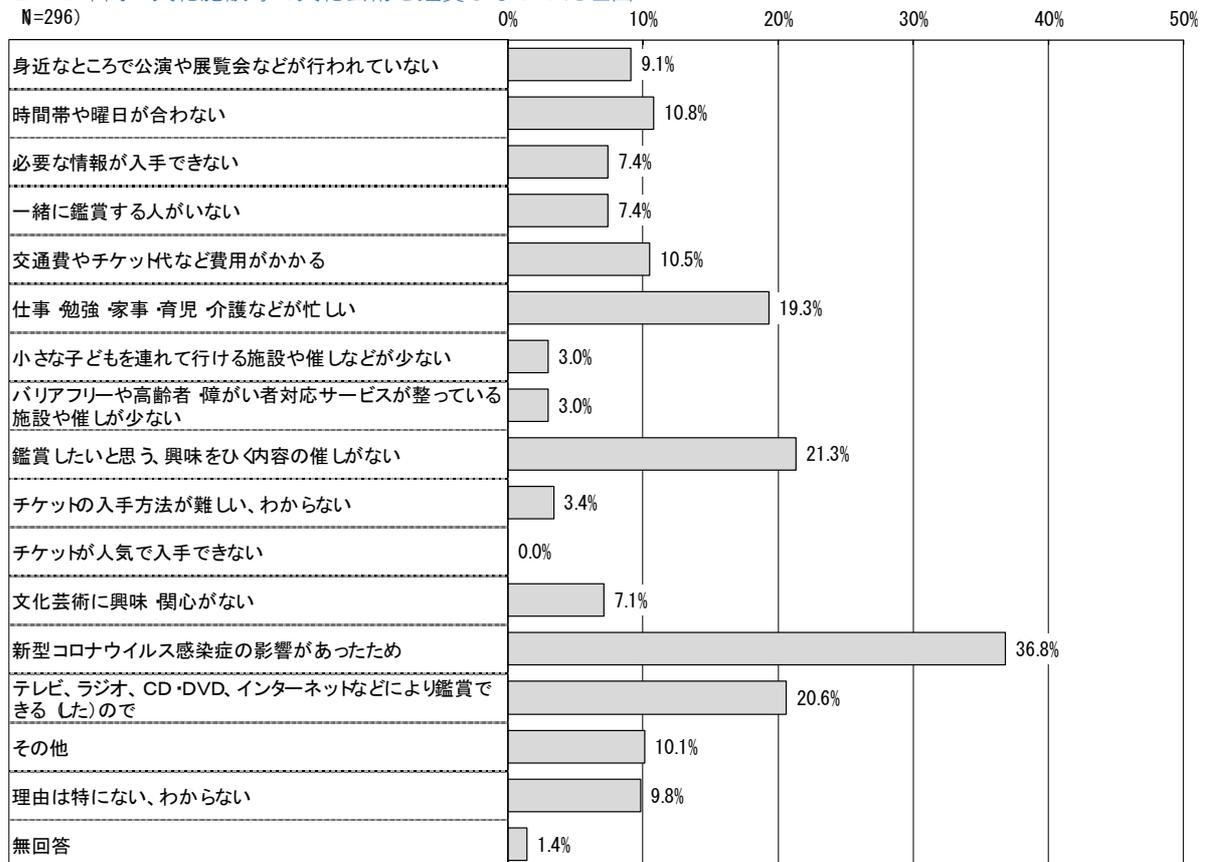
過去1年間に、ホールや劇場、美術館、博物館、映画館などでかけて文化芸術を鑑賞した人の割合



町田市民の1年間の文化芸術の観賞は、66.6%となっており、東京都72.6%、全国67.3%より少なくなっている。

■図表6 2023年度 文化芸術に関する市民意識調査結果

この1年間に文化施設等で文化芸術を鑑賞しなかった理由



鑑賞しなかった主な理由は、新型コロナの影響とオンライン鑑賞を除くと、「仕事・勉強・家事・育児・介護などが忙しい」は19.3%、「身近なところで行われていない」は9.1%、「時間帯や曜日が合わない」は10.8%、「鑑賞したいと思う・興味をひく内容の催しがない」は21.3%となっている。

②町田市基本構想・基本計画「まちだ未来づくりビジョン2040」において、共生社会の一層の進展を目指しています。しかし、健康状態によっては文化芸術を施設で鑑賞することができなくなっています。

■図表7 2023年度 文化芸術に関する市民意識調査結果

「この1年間に文化施設等で鑑賞した」の健康状態別の割合

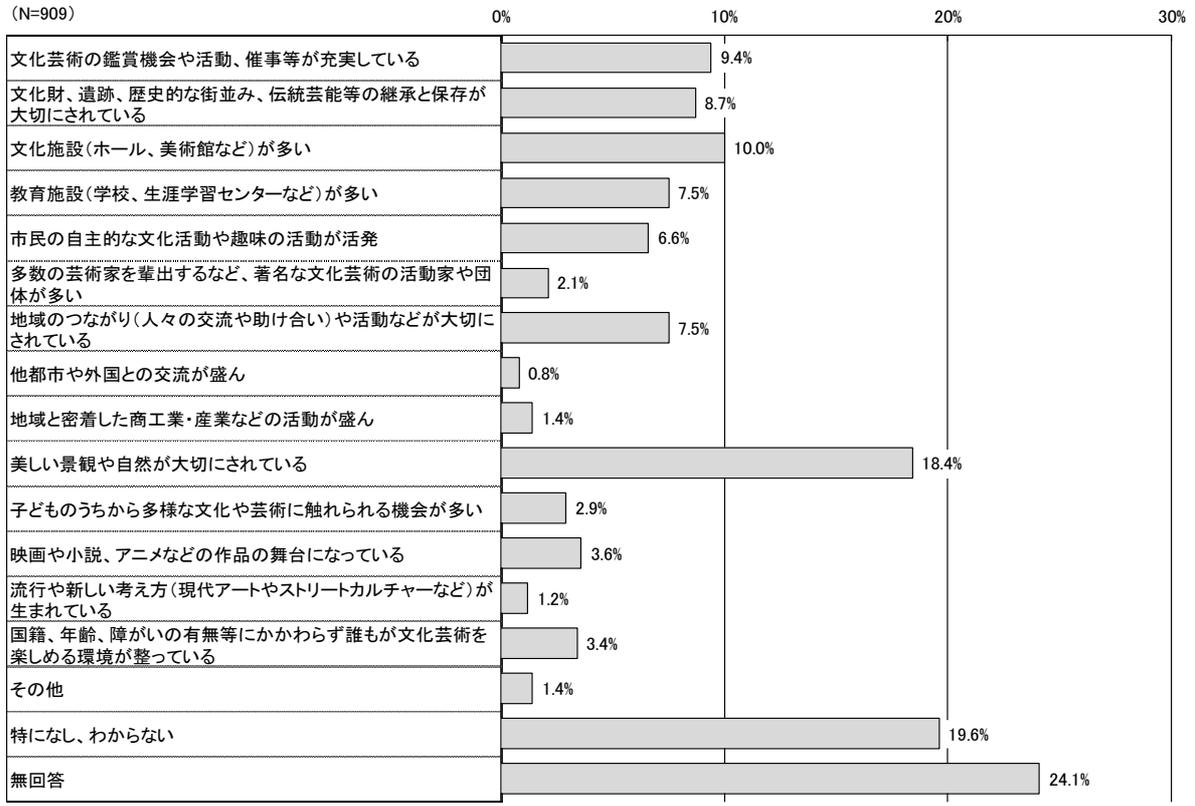


この1年間に文化施設等で鑑賞した人の割合は、介助・介護が必要な方で12.5%、障がいのある方で47.1%と、健康面で特に問題はない方の69.7%と比べ、低くなっている。

③町田市ならではの文化を認識しづらい状況にあります。町田の文化芸術に興味を持ってない人が増えることが懸念されます。

■図表8 2023年度 文化芸術に関する市民意識調査結果

町田市の「文化的なまち」のイメージ

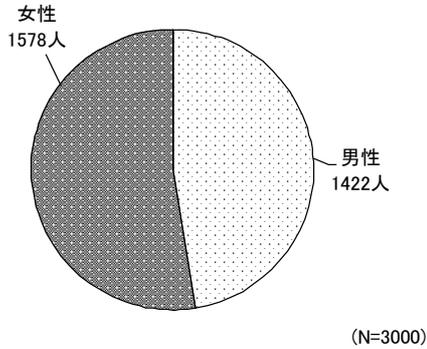


町田市の「文化的なまち」のイメージについて、無回答を含め特になしと回答した割合は 43.7%となっている。次いで「美しい景観や自然が大切にされている」が 18.4%となっており、いずれの年代別においても同程度の回答率となっている。

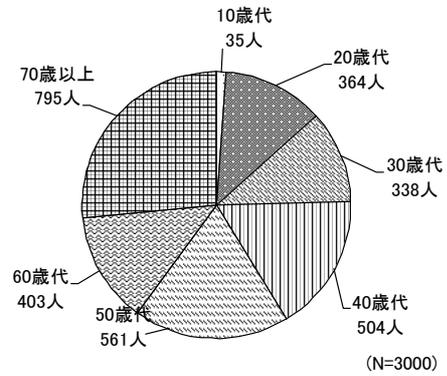
④町田市民のうち、男性と20歳代から40歳代の文化芸術への興味関心が低くなっています。

■図表9 2023年度 文化芸術に関する市民意識調査結果

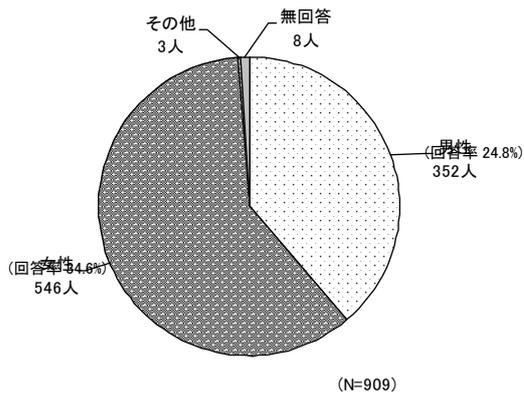
調査対象者の性別



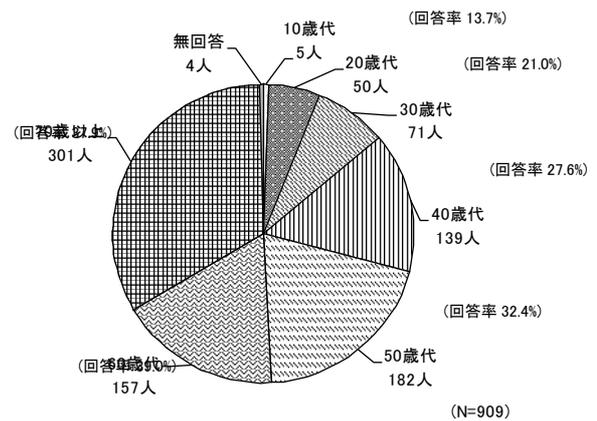
調査対象者の年齢



回答者の性別



回答者の年齢



男性の回答率は女性の回答率と比較し、10%程度低くなっている。

また、20歳代の回答率は50歳代以上と比較し20%程度、30歳代の回答率は15%程度、40歳代の回答率は10%程度低くなっている。

(2) 文化芸術活動団体の状況

町田市では、町田市文化協会が主催する「町田市民文化祭」、町田フィルハーモニー交響楽団が主催する定期演奏会、NPO 法人町田バレエ連盟が主催する「まちだ全国バレエコンクール」が実施されています。また現在、芹ヶ谷に稽古場がある音楽座ミュージカルが、町田市民ホールでホームタウン公演をしています。

一般財団法人文化・国際交流財団内に「文化団体支援室」を設置し、文化創造活動を支援しています。

町田市文化・国際交流財団	2004年に設立し、主な事業として、芸術文化及び市民文化の向上に関する事業、町田市が設置する文化施設等の管理運営に関する事業、地域における国際交流活動の推進事を実施している。町田市民ホールや鶴川緑の交流館ホール等の指定管理者のJVの代表団体でもある。
町田市文化協会	町田22団体が加盟、会員数は約3,300名であり、舞台部門、展示部門、文芸部門が活動している。毎年「町田市民文化祭 秋の催し、春の催し」及び「新春文化の祭典 in 鶴川」を主催している。
町田市合唱連盟	2022年現在34団体900余名で構成されている。町田市内で活動している児童、女声、男声、混声などの合唱団が集まり、様々な音楽活動を実施。毎年「町田市合唱祭」を開催している。
まちだバレエ連盟	2019年10月より、旧NPO法人町田バレエ育成振興会は「まちだバレエ連盟」に改名し活動している。「まちだ全国バレエコンクール」を主催しており、2023年は第22回を迎えた。
町田市郷土芸能協会	町田市の郷土芸能・伝統芸能を継承する団体で、毎年、「町田市郷土芸能まつり」を主催・運営している。町田市郷土芸能まつりでは、郷土芸能団体が市内各地域で伝承されてきた獅子舞やお囃子などを披露している。2023年は第42回町田市郷土芸能まつりが開催された。
町田市シティオペラ協会	2003年に発足。町田、相模原、多摩を中心とするオペラを愛好する、個人・団体が参加して、オペラの研究、演奏活動を行い、オペラ芸術を振興している。毎年市民ホールにて定期公演を開催している。
町田フィルハーモニー交響楽団	1977年に「町田市民管弦楽団」から「町田フィルハーモニー交響楽団」と改称。モットーは「すばらしいアマチュアオーケストラを目指し、音楽を通じて相互の親睦研鑽を深め、あわせて地域音楽文化の発展向上に努めること」。毎年市民ホールにて定期演奏会を開催しており、2023年は第90回を迎えた。
町田市音楽協会	「全国町田ピアノコンクール」を主催。2023年度は第47回を迎えた。
音楽座ミュージカル※	1987年に旗揚げ。第1回作品として「シャボン玉とんだ宇宙までとんだ」を創作・上演。その後「とってもゴースト」「チェンジ」「マドモアゼル・モーツァルト」「泣かないで」「SUNDAY」等、新作を発表し続けている。2013年に町田市文化芸術パートナーシップ協定の第1号として町田市と締結し、町田市民ホールでホームタウン公演をしている。

■強み

④町田市には、音楽家、美術家、デザイナー、著述家等アーティストが多く住んでいます。

■図表 10 文化芸術関連の職業人口（2020年国勢調査より）

項目	町田市	八王子市	神奈川県	神奈川県	神奈川県	千葉県 柏市
			相模原市	藤沢市	川崎市	
音楽家、舞台芸術家	720人(0.2%)	680人(0.12%)	550人(0.08%)	240人(0.05%)	3,840人(0.2%)	200人(0.04%)
美術家、デザイナー、写真家、映像撮影者	1,880人(0.4%)	1,700人(0.29%)	2,200人(0.3%)	1,260人(0.3%)	8,050人(0.5%)	1,280人(0.3%)
著述家、記者、編集者	560人(0.1%)	520人(0.09%)	490人(0.07%)	640人(0.1%)	2,840人(0.2%)	540人(0.1%)

音楽家、舞台芸術家 720 人(0.2%)、美術家、デザイナー、写真家、映像撮影者 1,880 人(0.4%)、著述家、記者、編集者 560 人(0.1%)と、周辺市や同規模自治体と比較してアーティストの割合が多い。4

■問題点

⑤健康面で特に問題がない方のほうが文化芸術活動をしており、介助・介護が必要な方などが、健康上の理由から文化芸術活動をしづらい状況にあるため、社会から孤立しやすくなっています。

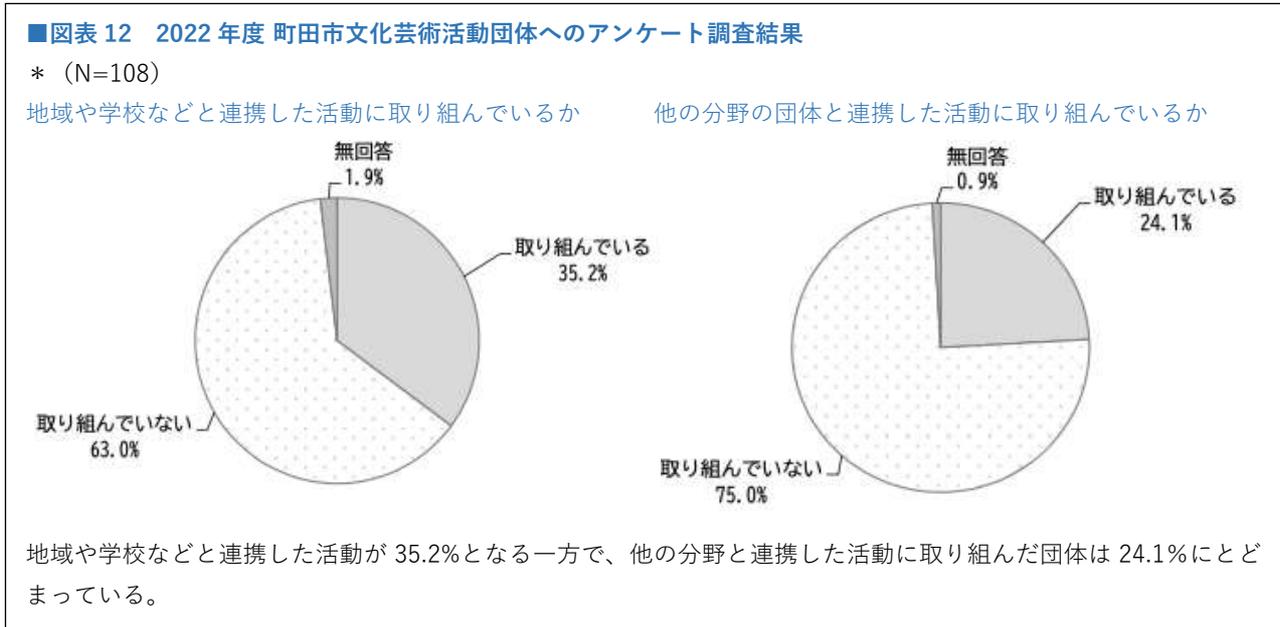
■図表 11 2023 年度 文化芸術に関する市民意識調査結果

「この1年間に文化芸術に関わる活動をしたか」の健康状態別の割合



文化芸術に関わる活動をした人の割合は、介助・介護が必要な方で 8.3%、障がいのある方で 23.5%と、健康面で特に問題はない方の 30.4%と比べ、低くなっている。

⑥法で求められている観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の関連分野との連携が十分できていないため、多様な人が交流する機会がなくなることが懸念されます。



(3) 文化資源の状況

町田市立国際版画美術館などで美術品の収集・展示を行っているとともに、石器時代から江戸期の古民家までの遺跡や建築物の保全、市内で伝承されている獅子舞やお囃子など市の無形文化財としての指定など、美術振興や文化財保護、伝統文化振興を実施しています。

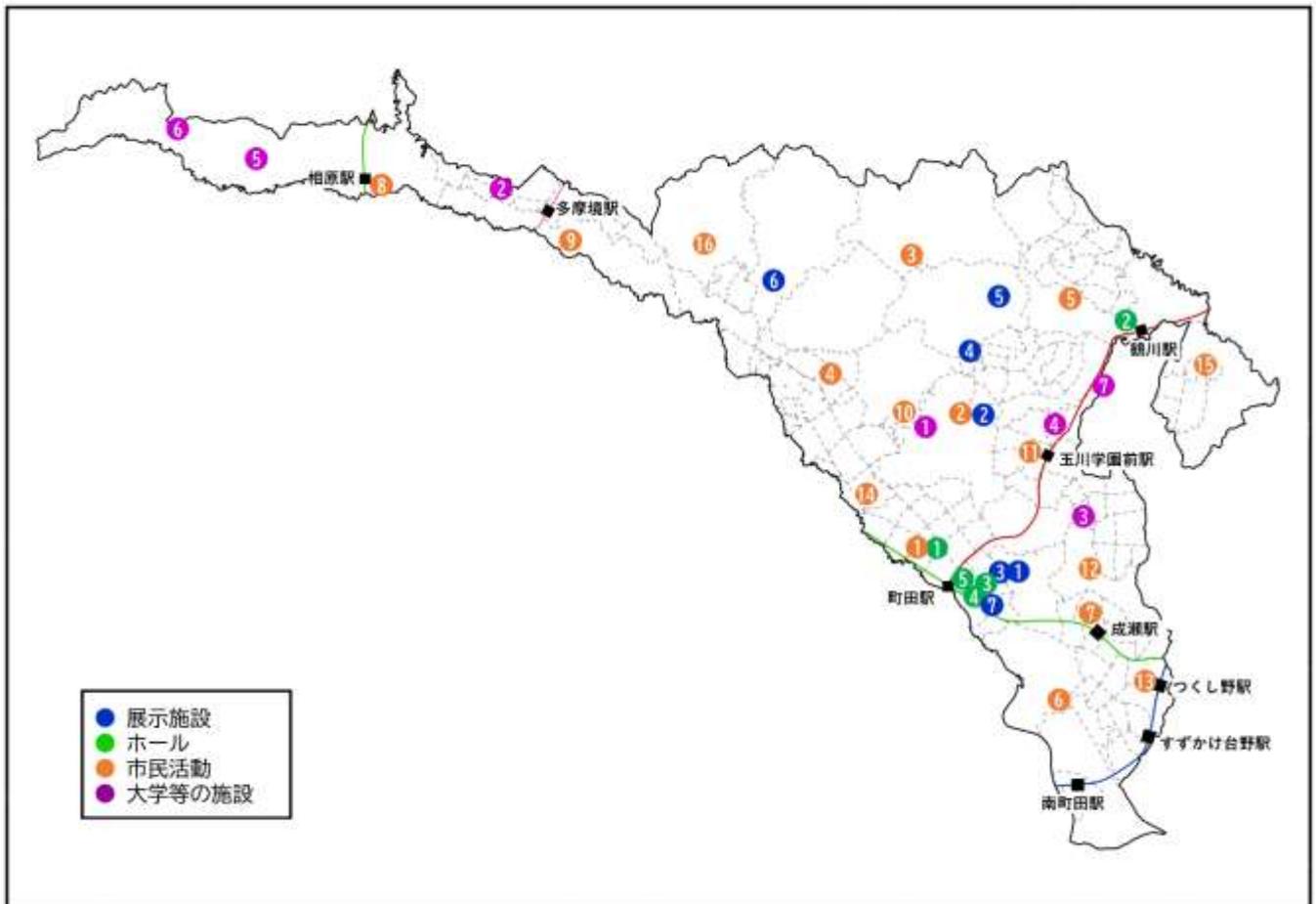
遺跡については、町田市には約3万年前の旧石器時代から近代までの遺跡が約1,000ヶ所あります。特に縄文時代の遺跡が多く貴重な遺物なども出土しています。出土した代表的な資料は町田市考古資料室において展示・公開を行っています。

代表的な指定文化財としては、国指定重要文化財の「旧永井家住宅」と国指定史跡の「高ヶ坂石器時代遺跡」の国指定2件、「田端環状積石遺跡」や「本町田遺跡」など都指定16件が挙げられます。

また、獅子舞やお囃子については、町田市の無形民俗文化財に指定されているものは5件あり、金井の獅子舞、矢部八幡宮獅子舞、丸山獅子舞、大戸囃子及び三ツ目囃子が登録されています。

町田市民文学館では、遠藤周作や森村誠一など町田にゆかりのある作家の原稿や書籍などの文学資料約7万点を収集・保存するとともに、展覧会や講演会などを通して文学やことばの魅力・楽しさを伝えています。

■図表 13 町田市内の主な文化芸術活動施設の配置図



展示施設

- ① 町田市立国際版画美術館
- ② 町田市立博物館
- ③ 町田市民文学館ことばらんど
- ④ 町田市フォトサロン
- ⑤ 町田市立自由民権資料館
- ⑥ 町田市考古資料室
- ⑦ 町田市立図書館

ホール

- ① 町田市民ホール
- ② 和光大学ポプリホール鶴川
- ③ 町田市民フォーラム
- ④ 町田市文化交流センター
- ⑤ 町田市生涯学習センター

市民活動

- ① 町田市庁舎
- ② 青少年施設ひなた村
- ③ 小野路宿里山交流館
- ④ 忠生市民センター
- ⑤ 鶴川市民センター
- ⑥ 南市民センター
- ⑦ なるせ駅前市民センター
- ⑧ 堺市民センター
- ⑨ 小山市民センター
- ⑩ 木曾山崎コミュニティセンター
- ⑪ 玉川学園コミュニティセンター
- ⑫ 成瀬コミュニティセンター
- ⑬ つくし野コミュニティセンター
- ⑭ 木曾森野コミュニティセンター
- ⑮ 三輪コミュニティセンター
- ⑯ 上小山田コミュニティセンター

大学等の施設

- ① 桜美林芸術文化ホール
- ② サレジオ工業高等専門学校 サレジアンホール
- ③ 昭和薬科大学 記念講堂
- ④ 玉川大学 University Concert Hall 2016
- ⑤ 東京家政学院大学 大江スミ記念ホール
- ⑥ 法政大学 百周年記念館
- ⑦ 和光大学 Jホール

■強み

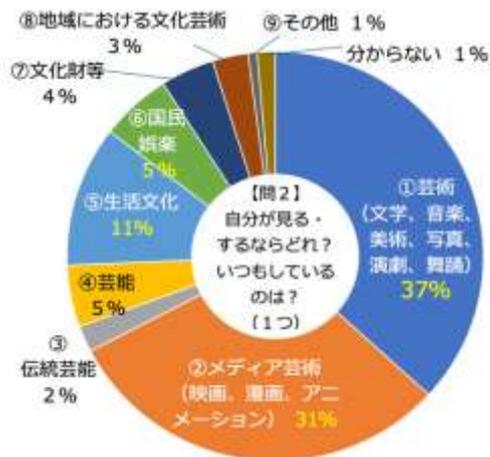
- ⑤ 町田市には、東南アジア陶磁器やボヘミアングラスなど、国内トップレベルの陶磁器・ガラス作品のコレクションがあります。
- ⑥ 縄文時代の遺跡が多くあり、貴重な遺跡・出土品があります。

⑦学校教育の中で学ぶあるいは、身近な人が行っていることから伝統芸能を知って興味を持ち、体験してみたいという声があります。

■図表 14 2023年度 子どもセンター「あなたは文化芸術について何にきょうみがある？」調査結果

* 町田市内 6 つの子どもセンターで 4 歳から高校 3 年生までの 145 人に意見聴取。

文化芸術について、自分が見る・するとしたら何がいいか。いつもしているものは何か。



将来体験したい文化芸術活動として、伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊）や生活文化（茶道、華道、書道、食文化）、地域における文化芸術（地域の伝統芸能、民俗芸能）と回答した割合の合計は 15.8%となっている。

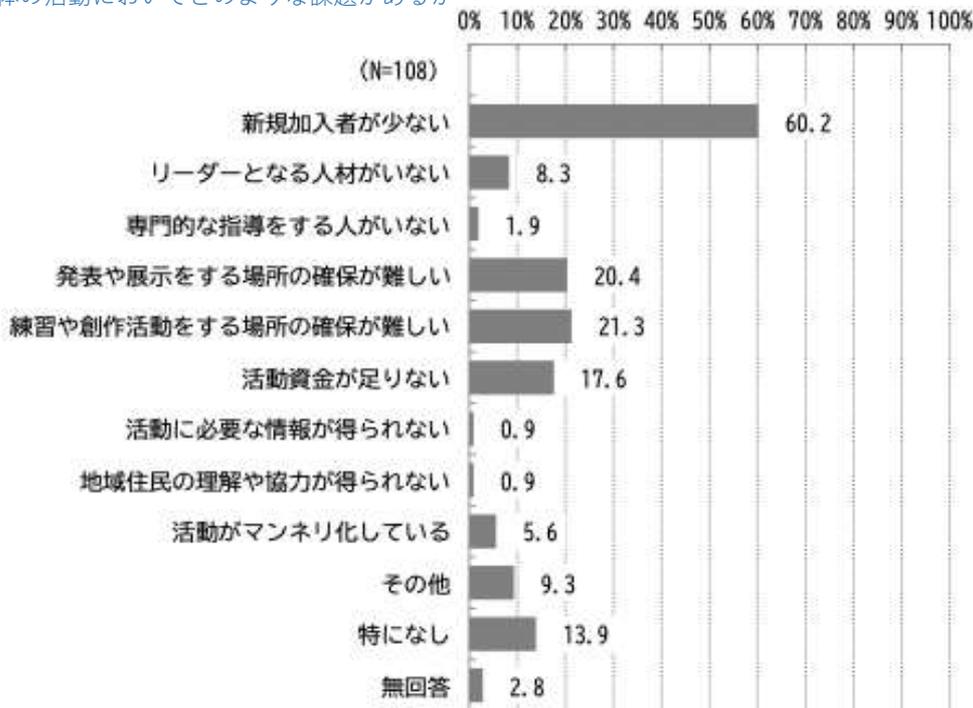
■問題点

⑦文化団体の会員獲得が難しいことや参加者が高齢化していることから、伝統芸能や生活文化を含む文化の継承ができなくなることが懸念されます。

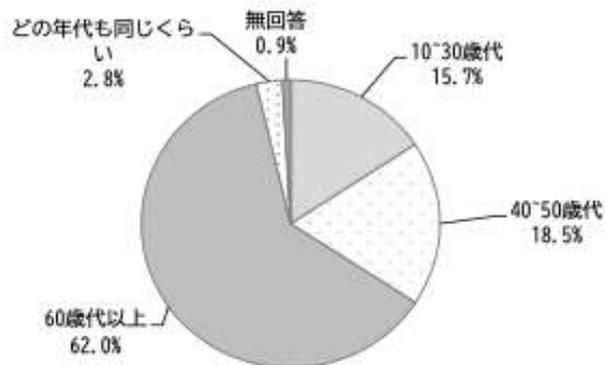
■図表 15 2022年度 町田市文化芸術活動団体へのアンケート調査結果

* (N=108)

団体の活動においてどのような課題があるか

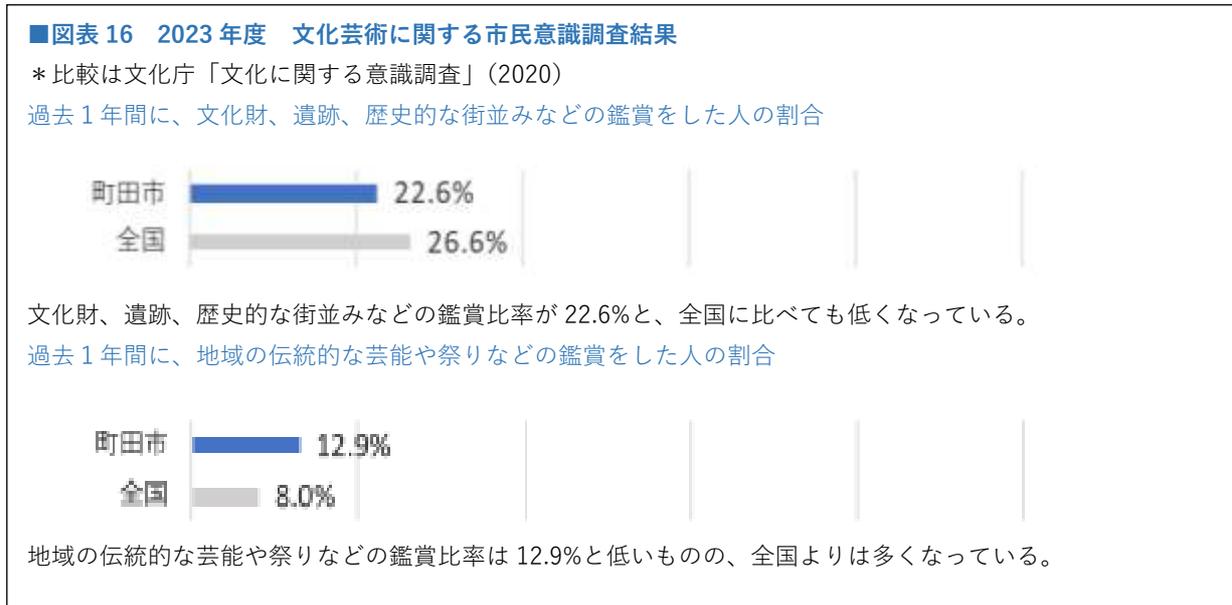


会員の中で最も多いのはどの年代か



団体の活動における課題として、「新規加入者が少ない」が 60.2%と1位となり、また、参加者も 60 歳代以上が 62.0%となっている。

⑧文化財や歴史的な景観を鑑賞する市民の割合が低くなっています。町田の無形文化財等を鑑賞する機会が少ないと、担い手不足により継承できなくなることが懸念されます。



⑨2019 年に町田市立博物館が閉館したことから、その収蔵物などを適切に保全・展示する場所が必要です。

(4) 文化施設の整備状況

町田市の代表的なホール施設としては 1978 年に開館した「町田市民ホール (862 席)」、2012 年に行政の出張窓口などとの複合施設の中に開館した「和光大学ポプリホール鶴川 (300 席)」があります。

ホールについて周辺市との比較でみると、相模原市に「相模原市文化会館 (大 1,790 席、小 240 席)」が、川崎市に「川崎市スポーツ・文化総合センター (2,013 席)」、「川崎シンフォニーホール (大 1,997 席、小 150 席)」、八王子市に「八王子市民会館 (2,021 席)」が立地しており、町田市は周辺市に比して比較的小規模なホール施設しかない状況にあります。

また、美術館・博物館としては「町田市立国際版画美術館」や「町田市立博物館」、「町田市民文学館ことばらんど」、「自由民権資料館」などが立地しています。

■図表 17 主なホールの収容人数（周辺市・同規模自治体との比較）

項目	町田市	八王子市	神奈川県 相模原市	神奈川県 藤沢市	神奈川県 川崎市	千葉県 柏市
劇場・ホール	町田市民ホール (862人)	八王子市民会館 (J:COM ホール八王子) 2021席)	相模原市文化会館(相模女子大学グリーンホール) 大ホール(1790席) 多目的ホール(240席)	藤沢市民会館 大ホール(1380席) 小ホール(434席)	川崎市スポーツ・文化総合センター(カルッツかわさき)(2013席)	市民文化会館 大ホール(1338人) 小ホール(300人)
	和光大学ポプリホール鶴川 (300席)	八王子市芸術文化会館(いちょうホール) 大ホール(802席) 小ホール(288席)	相模原市民会館 大ホール(1270席) 小ホール(799席)	藤沢リラホール (200席)	川崎シンフォニーホール(ミュージア川崎シンフォニーホール) 音楽ホール(1,997席) 市民交流室(150席)	アミュゼ柏 (400席)
	町田市文化交流センター (最大220人)	八王子市南大沢文化会館 主ホール(500席) 交流ホール(270席)	杜のホールはしもと 大ホール(539席) 多目的室(200席)	湘南台文化センター市民シアター (633席)	川崎市麻生市民館(麻生文化センター) (1,002席)	中央公民館 講堂(171人)
	町田市民フォーラム (定員188人) 町田市生涯学習センター (定員158人)	八王子学園都市センター (最大288席)	神奈川県立相模湖交流センター (456席)	Fプレイス ホール(300人) 多目的交流ホール (157人)	川崎市アートセンター (214人,113人) 川崎能楽堂(148人) 新百合トウェンティワンホール(450人) ラゾーナ川崎プラザソル (200人) 川崎市総合福祉センター (923人) 川崎市立労働会館(762人) 川崎市産業振興会館 (478人) 川崎市国際交流センター (264人)	—

各自治体ホームページより作成

■強み

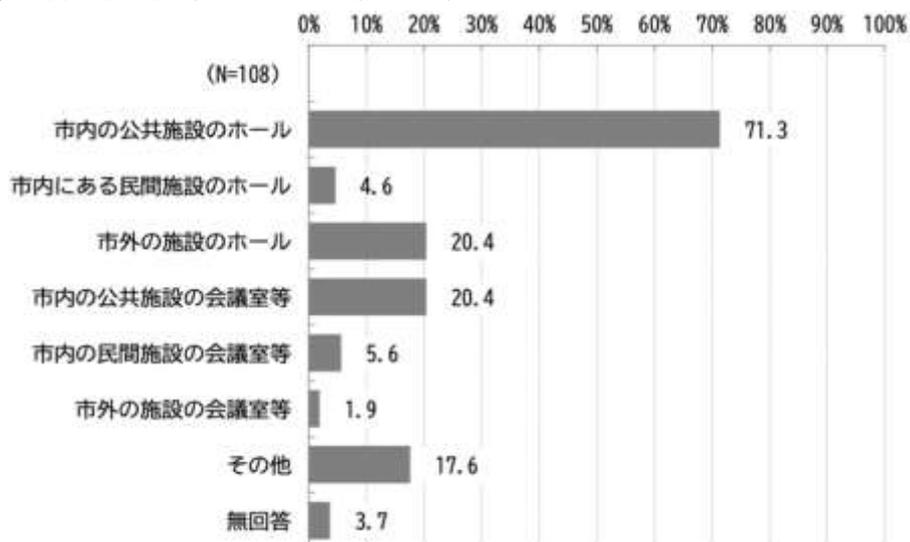
- ⑧「町田市立国際版画美術館」は日本でも珍しい版画専門のユニークな美術館で、町田市の文化芸術面におけるひとつの特徴となっています。
- ⑨「芹ヶ谷公園”芸術の杜”パークミュージアム計画により、「町田市立国際版画美術館」の立地する芹ヶ谷公園では、(仮称)国際工芸美術館や、公園案内・版画工房・アート体験等が一体となった施設の整備も進めています。町田市の文化芸術について、鑑賞と体験による交流を実施していくとともに、町田市の文化芸術を広くPRする拠点としていきます。
- ⑩「町田市民文学館ことばらんど」は多摩26市で唯一の総合文学館として、文学・ことば・文字をテーマにした特色ある事業を実施しています。
- ⑪「自由民権資料館」では、明治時代に町田で盛んであった自由民権運動と町田の通史を紹介する事業を行っています。

■問題点

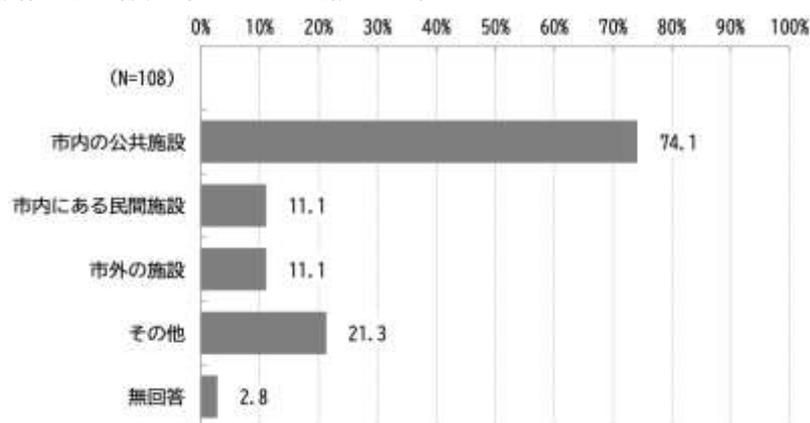
- ⑩「町田市民ホール」は、2014年、2021年と二度に亘り大規模改修を実施しているものの、躯体自体が老朽化しています。老朽化により施設が利用できなくなると、市民等の文化芸術活動の場がなくなることが考えられます。

■図表 18 2022年度 町田市文化芸術活動団体へのアンケート調査結果

成果の発表や展示会などに利用している施設や場所



日常的な練習や創作などの活動に使っている施設や場所



公共施設のホールは、文化芸術活動の発表や展示等に利用している施設として 71.3%、日常の練習や創作活動に利用している施設として 74.1%を担っており、市内の文化芸術活動の基盤を担っていることがわかる。

(5) デジタル化・PR の状況

文化芸術施設について、近年の動向として、デジタル化の必要性が新たに2つ出てきています。ひとつは2022年の博物館法改正によりデジタル・アーカイブを作成する必要性が出てきたことで、もうひとつはコロナ禍の中で大きく着目されたインターネットを通じての映像配信です。

また、東京都では、コロナ禍の知見や経験から、「東京文化戦略2030」の4つの重点手法の1つにおいて「デジタルテクノロジーの活用」を挙げており、文化庁においても文化芸術事業のデジタル化について大きく予算を振り分けています。

■強み

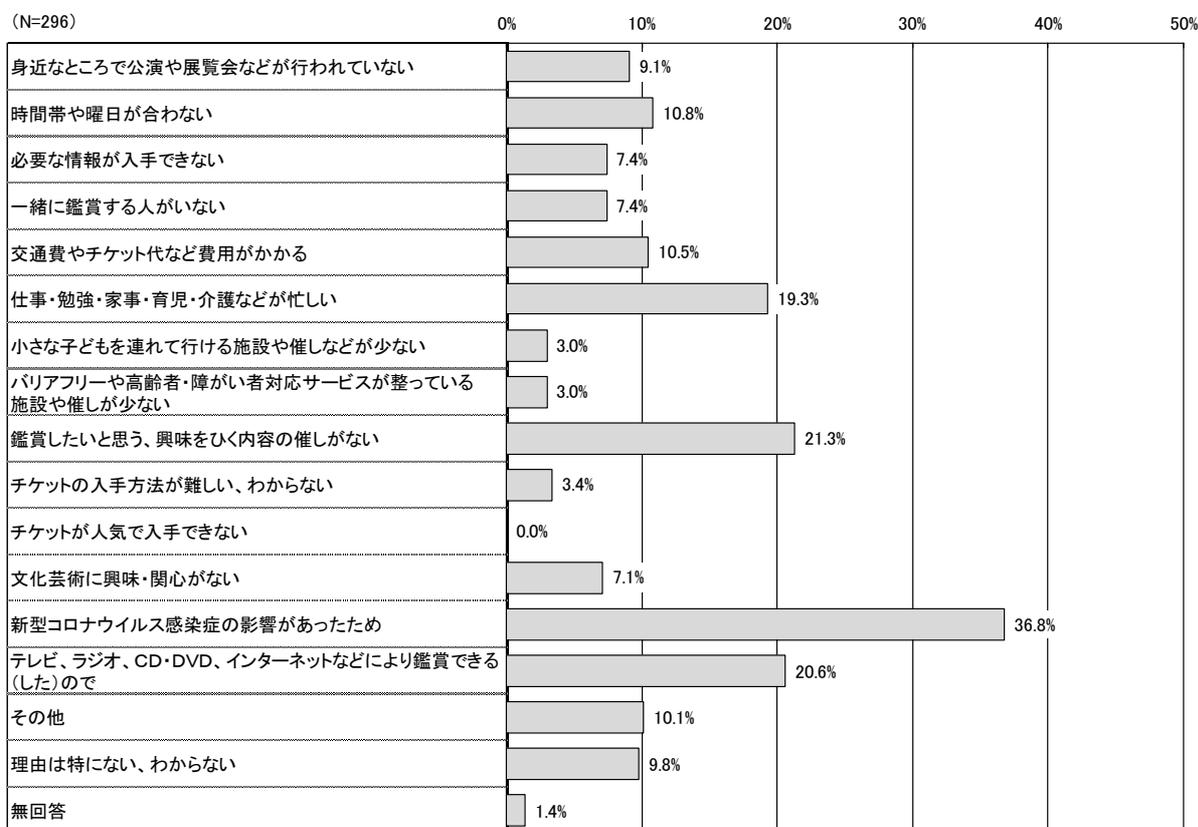
⑫2022年以降、デジタルミュージアムにおいて、2000点以上の考古、歴史、民俗資料をデジタル・アーカイブで掲載しており、代表的なものは3Dを含む高精細画像で鑑賞できる環境を整えています。

■問題点

⑪今後、町田市で行われる事業展開において、コロナ禍で広まった映像配信の必要が増えてくると考えられます。十分に組み合わせてないと、町田の文化芸術を十分伝えられなくなることが懸念されます。

■図表6（再掲） 2023年度 文化芸術に関する市民意識調査結果

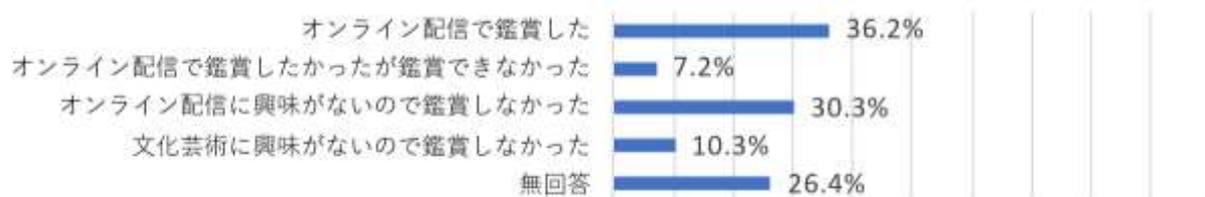
この1年間に文化施設等で文化芸術を鑑賞しなかった理由



鑑賞しなかった主な理由のうち、「テレビ、ラジオ、CD・DVD、インターネットなどにより鑑賞できる(した)ので」は20.6%となっている。年代別にみると、50歳代18.8%、60歳代25.6%、70歳代26.4%となっている。

■図表 19 2023 年度 文化芸術に関する市民意識調査結果

この1年に、インターネットによる有料のオンライン配信で公演や展覧会等を鑑賞したものはあるか



有料のオンライン配信で公演や展覧会等を鑑賞した割合は 36.2%と高くなっている。

⑫町田市の文化芸術を紹介する「町田市文化芸術プロモーション事業」や町田市立国際版画美術館や町田市立博物館、芹ヶ谷公園パークミュージアムについて、現在はそれぞれが市ホームページ及びインスタグラム等 SNS でイベント情報を掲載する状況に止まっており、町田の文化芸術活動が十分伝えられなくなることが懸念されます。

7 課題設定

近年の様々な社会環境の変化を把握し、本計画での現状に対応する課題を以下のとおり整理しました。

【問題点と課題の対応】



課題
1

身近な場所で手軽に参加できる機会を提供する。

市内の様々な場所で気軽に参加できる文化芸術活動を実施し、市民の文化芸術への興味・関心を湧きあがらせる機会を提供します。

課題
2

子育て中の人や障がいのある人なども気兼ねなく鑑賞できる機会を提供する。

乳幼児、介助・介護が必要な高齢者、障がい者、病気の人、日本語が不自由な外国にルーツを持つ人、病気状態にある人なども、文化芸術に鑑賞しやすい機会を提供します。

課題
3

様々な個性を持つ人も活動できるようにする。

様々な個性を持つ人も社会参加することができる共生社会を実現し、他者理解ができる社会をつくるため、乳幼児、介助・介護が必要な高齢者、障がい者、日本語が不自由な外国にルーツを持つ人、病気状態にある人などが文化芸術をすることにより、社会とつながることができる事業を実施します。

課題
4

他分野と連携し、様々な人々が交流できるようにする。

年齢、性別、国籍の違いや障がいの有無などに加えいろいろな考え方の人たちが、文化芸術活動を通じてより多くの人々と交流し、相互理解を進めることにより、多様な価値観を尊重しあえる社会をつくっていきます。

課題
5

文化芸術団体や、無形文化財など町田の文化芸術を継承するための担い手を育成する。

文化芸術活動や無形文化財を継承するため、文化芸術活動の担い手である各団体の活動を支援します。また、町田に育つ子どもたちが豊かな文化芸術体験ができる環境を整備し、文化芸術を承継できるようにします。

課題
6

町田を代表する文化芸術事業を実施し、街の活力を高める。

集客力強化やイメージアップ、あるいは街に来た人の回遊性向上による消費単価の増加など、様々な効果が期待されている文化観光等、他分野の要素を取り入れた文化芸術事業を実施します。

課題
7

文化芸術団体同士が連携し、新たな価値を創造することで、町田の文化芸術の魅力を高める。

文化芸術団体やアーティストの活動機会を増やし連携することにより、新たな文化芸術やアーティストを発掘し、新しい町田らしさを創造し、町田の文化芸術の魅力を高めていきます。

課題
8

文化芸術を鑑賞・活動する場所を整備する。

町田市全体の文化芸術施設について、文化芸術事業の実施に効果的な投資・整備のあり方を検討し、適切に管理します。

課題
9

公演や展示品をオンライン鑑賞できるようにする。

今後、町田市で行われる公演事業においても映像配信の必要性が増えてくると考えられるため、対応していきます。また、町田市立博物館でも収蔵品をオンライン提供する等、各施設においてより網羅的なデジタル・アーカイブを作成していきます。

課題
10

町田市の文化芸術コンテンツを作成し、さらなる PR をする。

市外からの集客への支援を含め、より強力に町田の文化を発信していくために、PR を強化していきます。

8 目指す姿と施策体系

文化庁が法に基づき策定した第2期文化芸術推進基本計画では、文化芸術の価値（チカラ）を増進し、文化芸術のみならず社会・経済全体の発展に結びつけ、さらに文化芸術の成長に繋げていくことを目標としています。そこでは、文化芸術には、「人間が人間らしく生きるため糧となる」本質的な価値、「他者と共感しあい、地域社会・人類社会を発展させる」社会的な価値、「新たな需要や高い付加価値を生み出す」経済的な価値があるとしています。

町田市においても、第2期文化芸術推進基本計画を踏まえ、本計画を策定します。

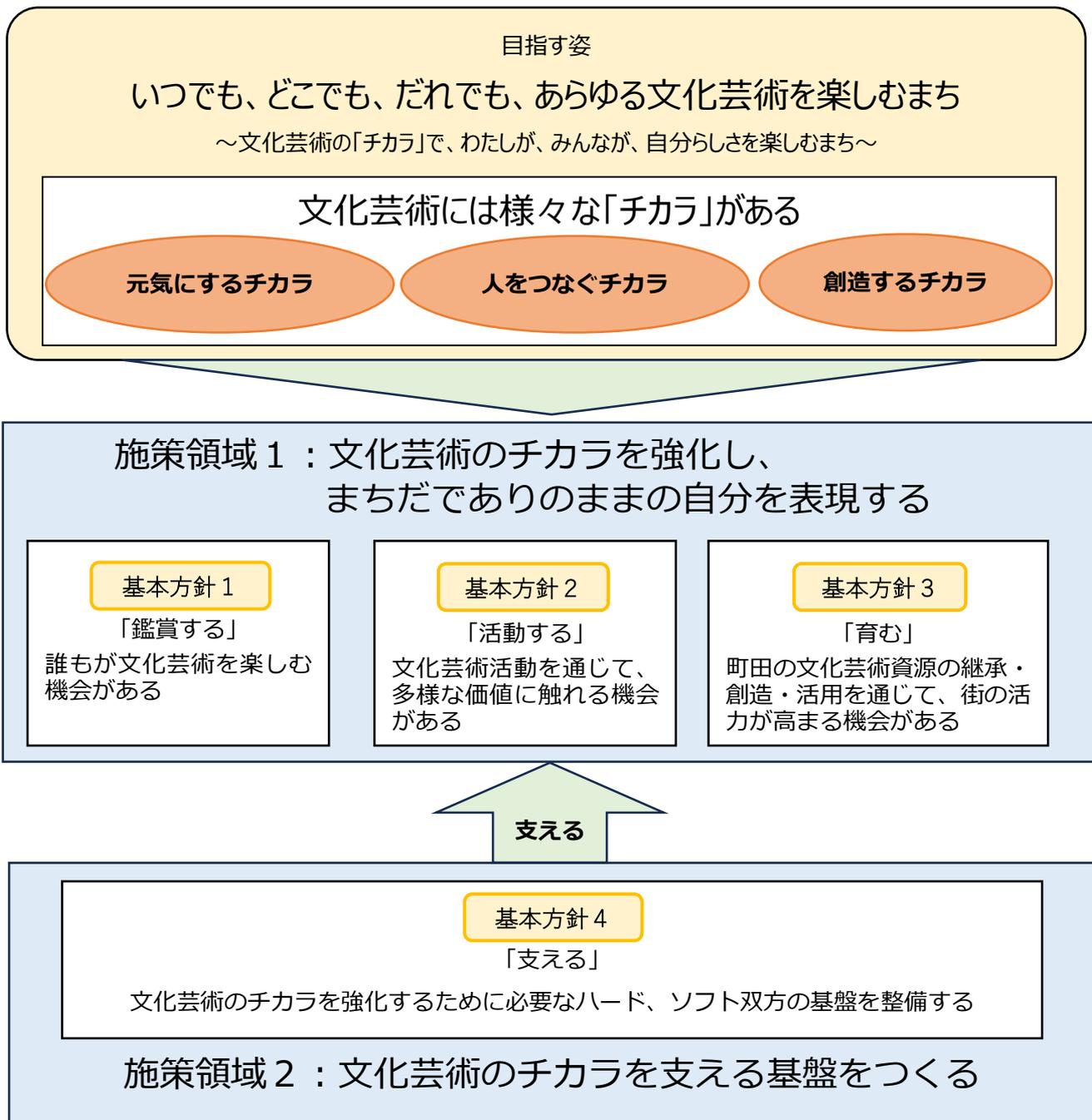
町田市には、年齢、性別、国籍の違いや障がい、病気の有無などに加え、いろいろな考え方の人たちが暮らしています。文化芸術は言葉や年代等様々な背景を超え、様々な個性を持つ人々がともに文化芸術を楽しむつなぎの役割を果たし、共感やつながり、新たな視点や創造力をもたらしてくれるものと考えています。

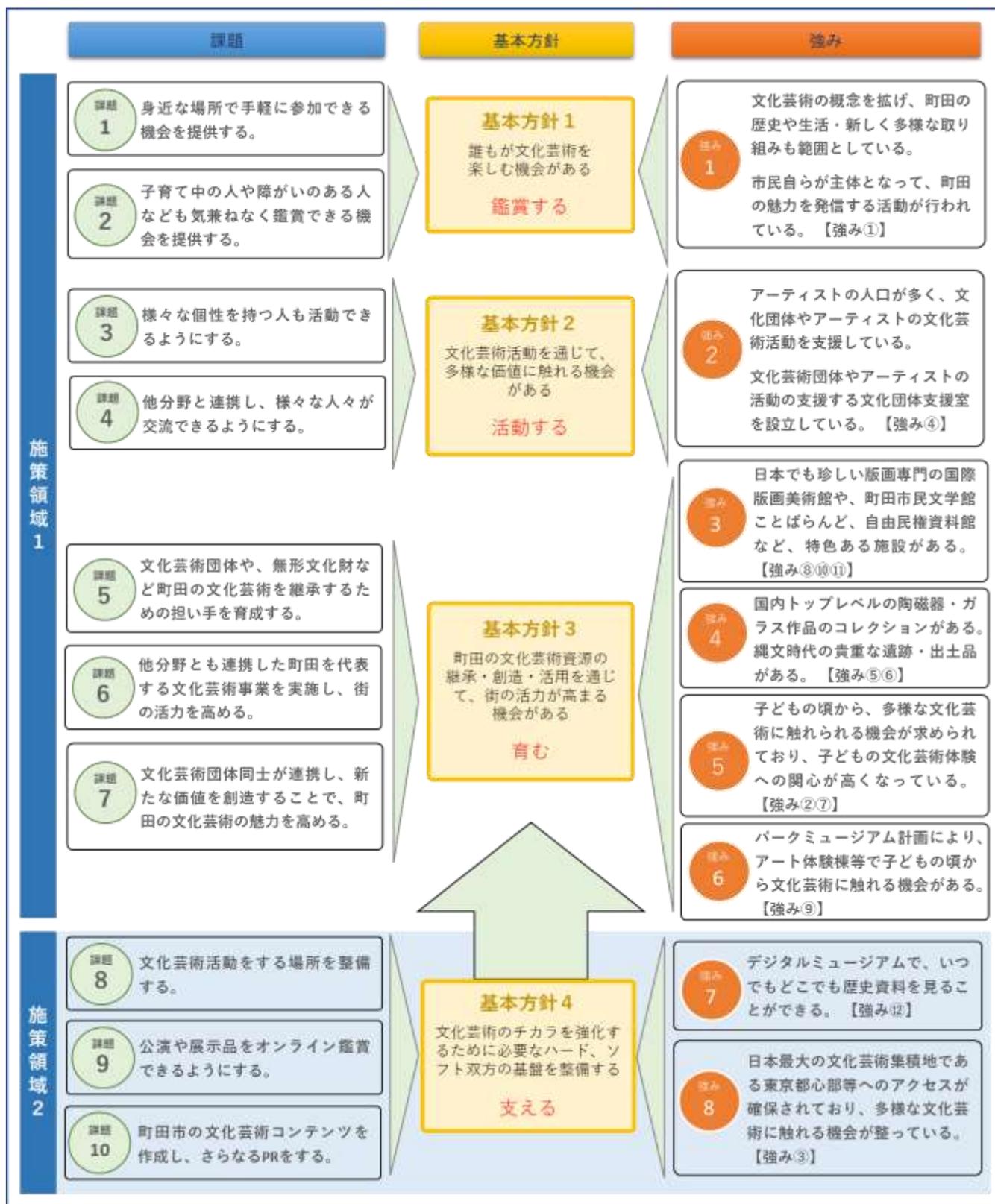
また、芸術活動を通じて、ありのままの自分を表現する方法を学ぶことで、自信や主体性を育てることができると考えています。お互いを尊重し、認め合うことで、一人ひとりの個性を大切にす地域づくりや次代を担う子どもたちの創造性を育むものと考えています。

そこで、身近な文化芸術や町田発の新たな文化芸術を市の魅力として発信することで、市民や来訪者の興味・関心を高め、一人でも多くの方が文化芸術に親しむ「いつでも、どこでも、だれでも、あらゆる文化芸術を楽しむまち」をつくります。

町田の文化芸術に触れ、その魅力を知った人がありのままの自分を表現できることで、町田が自分らしさを楽しむまちとなり、「なんだかんだ言っても、やっぱり町田が一番」と感じるができるよう、ここでは、下記の目指す姿とそれに基づく施策体系を定めました。

【目指す姿と施策体系】





施策領域1 文化芸術のチカラを強化し、まちだの成長に活かす

この施策領域では、目指す姿の達成するため、文化芸術のチカラを強化していく施策を実施します。

基本方針1「鑑賞する」

誰もが文化芸術を楽しむ機会がある

一人でも多くの市民や町田への来訪者が、身近な場所で気軽に町田の文化芸術活動を鑑賞することで、文化芸術の持つ「チカラ」を感じ、ありのまま豊かな生活がおくれることを目指します。

そのために、年齢、性別、病気や障がいの有無、国籍などによらず、多様な文化芸術に触れることができるようにしていきます。

また、身近にある何気ないモノやコトも文化であると気づくことで、町田の文化芸術資源に対して目を向けることができるようにしていきます。

具体的な施策の方向性としては下記が挙げられます。

- ▶①街中でのアウトリーチ事業の充実
- ▶②気軽に鑑賞できる機会の充実

基本方針2「活動する」

文化芸術活動を通じて、多様な価値に触れる機会がある

文化芸術活動を通じて多様な価値観を持つ人々と出会い、相互に理解し尊重しあえることで、文化芸術の持つ「チカラ」を感じることができる機会を拡充することを目指します。そのために、子ども、高齢者、障がい者、外国人等、様々な人々の文化芸術活動を支え、人々が参加・交流できるイベントやプログラムを開催することで、社会と結びつけることができるようにしていきます。

また、安定的に文化芸術活動を実施していくためには、その足場としての文化芸術団体が重要です。これまで、町田市や文化団体支援室で行ってきた文化芸術団体やアーティストの活動支援に加え、文化芸術団体運営への相談支援や文化芸術団体の紹介等他分野と連携できるようにしていきます。

具体的な施策の方向性としては下記が挙げられます。

- ▶①団体相互の連携や他分野との連携
- ▶②文化芸術団体やアーティストの創造活動支援

基本方針3「育む」

町田の文化芸術資源を継承・創造・活用し、街の活力が高まる機会がある

文化芸術団体同士が連携し、多様な視点をとおした自由な取り組みがなされることで、町田ならではの文化芸術の継承とそれに基づく創造、活用することを目指します。

文化芸術には、地域独自の文化的な蓄積や伝統の継承を踏まえて新たなものを創造し、賑わいによって経済的な価値を生み出していく「チカラ」があります。

そのために、文化芸術団体やクリエイターと他分野の団体・市民団体等との協働による文化プログラ

ムを開催し、新たな価値観の共有を図ることにより、各地域の活性化ができるようにします。

具体的な施策の方向性としては下記が挙げられます。

- ▶①伝統文化、文化財の継承
- ▶②幼児・学校教育との連携
- ▶③文化観光、賑わいづくり

施策領域 2 文化芸術のチカラを支える基盤をつくる

この施策領域では、施策領域 1 における文化芸術のチカラを強化するにあたって必要となるハード、ソフト双方の基盤づくりに関する施策、事業を整理します。

施策領域 2 の施策・事業は、施策領域 1 を達成するための手段です。

基本方針 4 「支える」

文化芸術のチカラを強化するために必要なハード、ソフト双方の基盤を整備する

文化芸術事業を効果的に展開していくために、ハードの整備、ソフトの整備を考える必要があります。そのために、町田市内の文化芸術施設の適正な規模・数の確保や管理などのハードの整備すでに行っているデジタルミュージアム等デジタル化の対応をしていきます。

同時に市民や市内の団体、町田市に来訪される方全体に向け、「町田の文化芸術」に対する認知を高め、興味関心をもってもらうソフト面での基盤づくりを強化する必要があります。また、文化芸術事業を効果的に実施し、市内外の方に受け入れていただくためには、関係団体との連携の基盤づくりとなるプラットフォームも必要です。

具体的な施策の方向性としては下記が挙げられます。

- ▶①文化芸術施設の整備、改善
- ▶②デジタル化・オンライン化の推進
- ▶③文化芸術の PR 体制の構築
- ▶④プラットフォームの構築

9 策定・推進体制

(1) 計画の策定体制

本計画の策定にあたっては、市民等の意見を聴取するため、町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会（※1）を設置するとともに、庁内で連携した検討を進めるため、町田市文化芸術のまちづくり計画庁内検討会（※2）も設置します。

また、市民の文化芸術活動の実態や要望を把握するための市民意識調査アンケートや、子どもセンター等を活用した子どもからの意見聴取を行い、ニーズの把握や意見交換をしながら計画を策定します。

※1 町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会

- ・学識経験を有する者（3名）
 - ・文化関係団体の代表（3名）
 - ・経済関係団体の代表（1名）
 - ・観光関係団体の代表（1名）
 - ・小・中学校長会代表（2名）
- （事務局）文化スポーツ振興部文化振興課

※2 町田市文化芸術のまちづくり計画庁内検討会

- ・文化スポーツ振興部文化振興課長
- ・生涯学習部生涯学習総務課長
- ・政策経営部広報課長
- ・文化スポーツ振興部国際版画美術館副館長
- ・地域福祉部障がい福祉課長
- ・子ども生活部児童青少年課長
- ・経済観光部産業政策課長
- ・経済観光部観光まちづくり課長
- ・道路部道路政策課長
- ・都市づくり部中心市街地開発推進室長
- ・都市づくり部公園管理担当課長
- ・学校教育部教育総務課長
- ・生涯学習部市民文学館担当課長
- （事務局）文化スポーツ振興部文化振興課

(2) 計画の推進体制

本計画の推進は、行政が全体を取りまとめながら、各関係主体の協力のもと着実に推進していきます。

関係主体	役割
文化関係団体	文化芸術の創造・実践をする立場からの市事業実施への協力や市の計画推進の方向性に沿った活動展開、文化芸術に関わる各種団体との連携、協働の促進 など
経済関係団体	文化芸術事業を通じた中心市街地の賑わいづくり、市の集客力アップにおける連携、協働（商店会、商業施設などとの調整含む） など
観光関係団体	文化芸術事業を通じた町田の都市観光拠点としての集客力、イメージアップにおける連携、協働（観光事業者、まちだ名産品事業者との連携や、ロケ地協力などを含む） など
小・中学校	子どもたちの文化芸術活動環境改善を目指した事業実施における連携、協働など
行政	計画の推進、各主体間（上記以外の福祉系団体、大学、まちづくり系団体や自治会などを含む）との連携・調整、情報発信 など

